

「京都市未来こどもはぐくみプラン（仮称）」中間とりまとめ案に対する 市民の皆様からの御意見

「京都市未来こどもはぐくみプラン（仮称）」中間とりまとめ案に関する意見募集を以下のとおり実施しました。

1 実施期間

平成26年10月19日（日）～平成26年11月18日（火）

2 応募方法

郵送，FAX又は電子メール

3 意見結果

応募者総数 545人，意見数 768件

(1) 男女別人数

男 性	女 性	不 明	合 計
241	265	39	545

(2) 年齢別人数

20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合 計
201	134	96	50	21	5	38	545

(3) 京都市在住，在勤別人数

京都市在住	京都市在勤	京都市在住・在勤	その他	不 明	合 計
340	109	30	29	37	545

(4) 意見数（項目別）

項目		意見数
1	プラン全般に関すること	100件
2	第1章 子どもを社会の宝として市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり	8件
3	第2章 次世代を育むすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり	229件
4	第3章 子どもを安心して生き健やかに育てることのできるまちづくり	42件
5	第4章 安心して子育てできる幼児教育・保育の充実	124件
6	第5章 放課後の子どもたちの居場所づくり	119件
7	第6章 伝統と文化を受け継ぎ，次代と自らの未来を切り拓く子どもたちを育むまちづくり	61件
8	第7章 支援を必要とする子どもや家庭を大切にすまちづくり	48件
9	第8章 ひとり親家庭の自立促進	23件
10	第9章 すべての家庭を支える子育て支援施策の充実	3件
11	その他	11件
合 計		768件

4 主な意見

別紙のとおり

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
プラン全般に関すること	
1	プランの方向性に賛同します。取組をしっかり前進させてほしい。子育ては、京都市だけでなく、家族や地域も一緒になって取り組むことだと思います。
2	様々な課題に対する取組案が提示されていると感じた。これがすべて実現すれば、子育て世帯にとって魅力ある「まち」になり得ると思う。
3	大人の側からではなく、子どもの側から考えた制度としていくという点において、とても共感している。
4	子どもを育むのに市という大きな枠組みでとても大事なことが書かれており、実践して欲しいと願う。
5	プランの内容は、賛同できる。子どもには、あらゆる可能性を示せる社会であってほしい。
6	内容の濃いプランが出来ていると思います。
7	細かい部分について、自分自身が具体的に考えていかなければならないと思った。
8	子どもを生み育てるかどうかはその人自身が決めることであるが、これから生まれる子どもが皆、幸せな結婚生活や子育てを期待でき、家庭を作るという選択肢を持つことができるよう、プランも考えてもらっていると感じる。
9	今後どのようなことに取り組むのかは理解したが、具体的にどうしていくかについては触れられておらず、施策・取組についての具体的な説明が必要
10	数多くの施策・取組のすべてを5年間で充実・改善させることが本当にできるのか。規模や人員などが分からず、現実味があまり感じられない。
11	今回の計画は、国の方針に基づく市の子育て支援の有り様を示している点で評価できる。今後は、いかに具体的な方策を示し、制度設計を図っていけるかが課題である。
12	基本理念の部分は納得できる内容ではあるが、計画全体を分かりやすく、もっと具体的に明記してほしい。
13	子育て支援のために必要な場所や機関、必要な人材育成や経済的援助について、市として明確にしてほしい。
14	プランの内容を市民一人ひとりが理解していけるように伝えるための仕組みづくりが最重要課題。
15	問題に対する取組が抽象的にしか書いてなくてわかりにくい、意見を募集するならもっと具体的に書いてほしい。
16	章によって書かれている内容の具体的さにバラつきがあり、進んでいる活動とあまりスムーズに進んでいない活動とがある様に感じた。
17	既に取り組んでいる施策とこれから取り組むものを分けて記載すると分かりやすい。
18	「子どもが社会の宝」の雰囲気づくりを具体化するには、どういう施策が必要か考えてもらいたい。
19	育てる側の負担の軽減策が中心で、子供の考える力や自主性を伸ばすための具体的な案が希薄である。
20	しっかり予算を確保して強化してほしい。子どものため、未来のために使われるなら納税者として納得できる。ただし、無駄をなくし、民間の手法も入れて「効率化」を。
21	京都市の子育て支援の施策が各課にまたがっており、予算が計画的に執行されているか疑問。
22	子どもや保護者を支える社会を目指す総合的なプランで、子どもを持つ親は安心できると思うが、プランの策定に終わるのでなく、京都が更に充実した子育て支援のまちとなるために、関係機関がお互いに協力し、実現していけることを願う。
23	箱もの、施策を作るだけでなく、中身の伴ったものにしてほしい。
24	実施していくプロセスでの課題、予算措置の問題もしっかりプランニングして計画化してもらいたい。
25	プラン全体として保育、幼稚園を中心としたニーズへの片寄りが見受けられる。予算が不足した場合、保育・幼稚園のニーズに優先配分され、施策・取組が片寄らないことを望む。
26	掲げられている多くの施策を実現することが重要。こどもの貧困対策、保育所の待機児童問題、こどもの遊び場などについて特に取り組んでほしい。
27	いろいろな取組や施策があるが、本当にそれが実行・充実していくのか心配。
28	子どもを産み育てるための支援メニューが充実していると思ったので、今後も推進して欲しい。
29	高齢者福祉よりも、育児支援に力を入れるまちづくり
30	行政の縦割りにより、行政サービスが融合しないことは子どもたちにとっては不幸なことあり、今後、縦割りが少しずつでも解消され、子どもたちや保護者目線での施策が進められることを期待する。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
31	約250ページにもわたる壮大な計画で驚いた。京都市における子育て支援のバイブルとして、市職員の方に活用してもらいたい。
32	子どもたちを育む環境づくりは、すべて公でできるものではない。京都市には、行政サービス等の量的充実のみならず、公・民を問わず、また福祉・教育関係者を含めて、子どもに関わる職員の資質の向上を確実に実施してほしい。
33	子ども・子育て支援新制度については、子育て支援や教育の分野に関する費用については、将来への国家への投資でもありとの考えの下、実施されることを望む。
34	どんな問題があって、何にお金が使われていて、どこにお金が足りていないかという情報を様々な世代広報していけば、現状理解からの行動につながるのではないかな。
35	プランを実現するための具体的取り組みや事業などが書かれていると、わかりやすいものになるのではないかな。市民のためのものなので、周知し、理解してもらおうところからがスタート。
36	京都市の事業をもっとアピールすれば、母親の負担なども少し軽減するのではないかな。
37	少子化対策と子育て支援を一緒に語るべきではない。
38	子ども・子育てと少子化対策を一緒にするのは間違っている。
39	多様性を認め、支援するのが行政。晩婚、晩産、少子化を非難しているかのように感じられ、不快である。子育て支援計画が少子化対策と混同されていることに疑問を感じる。
40	子育て支援施策がすなわち少子化対策、というものではないが、子育て支援の充実が少子化を解消するひとつの方策として大切な考え方である。結婚や出産を強制、強要することはできないと思うが、少子化の解消の必要性を行政から発信していくことは大切で、本当に対処が必要な事柄であるのならば、発信しない方がむしろ無責任である。
41	子育て支援都市・京都を実現することが、少子化対策にどう寄与するのか。新プランは、産まれた子どもたちが健やかに育つための施策は充実しているが、子どもを産み育てたいと思う人を増やす施策が少ないように感じる。
42	様々な支援が行われているが、「機運づくり」にはなかなか繋がっていないように感じるので、婚活のようなおもしろい事業を展開してほしい。
43	子どもがいることにより、生活が制限される事を理由に子どもをつくらないという人も少なくないので、子どもをつくるメリットを明確にすれば子どもも増えるのではないかな。
44	少子化が進行する中で、プランについて、ぜひとも必要な施策として賛同する。
45	少子化が進んでいる中でこのプランは大変良い施策だと思う。各世帯にもっと子供を増やし、未来がもっと住み良い世の中になることを期待する。
46	もっと市民からの意見を聞いていくことが必要
47	このプランは男性のつくったものであって、働きながら子育てをしている女性のことが考えられていない。現実の声を汲み上げるべき。
48	サイレントマジョリティの意見も汲んで広い視点で考えてほしい。
49	京都市内でも行政区、地域によって、子育て支援のサービスに差が生じているので、どこに住んでいても同じようなサービスを受けられるようにしてほしい。
50	子どもを守ることも、社会の中で安心して暮らせるという社会をつくっていくことが何より大切である。
51	市民一人一人が意識を持って子育てにかかわっていける街になることを望む。
52	自分たちにもいろいろな考えがある。がちがちに締め付けるのではなく、正しく導いてくれる社会を目指してほしい。
53	現行プランの施策の達成度は何%か。
54	現行プランの施策の有効・無効の評価や費用対効果の調査は。
55	「子育て」＝「生きがい」、「発達障害」＝「育てにくさ」、「安心して妊娠」、「晩婚・晩産化」＝「妊娠・出産・育児のイメージをもつことが容易でない」等は、差別的な言葉とを感じる人もいるのではないかな。
56	少子化の「進展」という表現は、「進行」に統一すべき。「進展」には進歩発展の意味がある。
57	入学前の子どもは「児童」と呼ばない。
58	イラストや図で読みやすく分かりやすいプランにしてほしい。
59	14ページの最下段が、段ずれしている。また、28ページの最下段についても、「○ また～」としてはどうか。

「京都市未来こどもはぐくみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
60	一元化児童館, 学童保育所, 放課後ほっと広場, 地域学童クラブ等の記載があるが, 各々の施設の説明がなく, それぞれが担う機能などがいまひとつ分かりづらかった。
61	目指すまちのすがたと各章との関連がよくわからない。ライフステージに応じた構成など, 段階に応じた施策構成にはならないのか。
62	子育てが「負担」であっても, たのしいこともたくさんある。
63	共働きの親が増え, 子どもが親にかまってもらえない分, 先生など他の人にかまってもらおうとする傾向があると聞く。それが解消されたらと思う。
64	子ども時代の経験が大人になってからの財産になる。経験への投資は惜しまないべきであると考え。京都から社会へ出る子どもたちが, 大きな経験を武器に社会に挑む。そんな土壌づくりを私たち大人が小さいことから仕掛け, 継続していきたい。
65	親より子どもが何をしたいのか, 何に不満を持っているのかを吸いあげられる制度が出来ればと思う。
66	保育園の子どもゴミ拾いをしながら歩いているのを見かけた。どのようにそういった教育を広げているのか。
67	優先座席に座っている若者を多く見かけるが, もっと規制を厳しくするべきではないか。
68	支援者のガイドラインを明確にし, どんな年代の支援者からも同じ支援がいきわたるように, 研修など充実させていってほしい。
69	「目指すまちのすがた」3の「豊かな心」「健やかな体」の調和をはぐくみ, 子どもたちがたくましい未来を切り拓くことのできるまちという主旨に少しでも役立つよう, 柔道を通じた指導を行っており, 子どもたちが京都市の未来を背負ってくれると固く信じています。
70	5つの「目指すまちのすがた」はどれも実現すべきであり, 5番目の「子どもが喜びの中で生まれ育ち, みんなが子育てに夢を持つことができるまち」が実現すれば, 今後子育てをする身としては非常に嬉しい。
71	子どもを生もうと思うには, 雇用・賃金や住宅など, 生活の基礎が成り立っていることが大前提であり, その意味では, 「目指すまちのすがた」にある「みんなが子育てに夢を持つことができる」ことを目指すのはとても重要であるが, それを実現するにはこのプランの枠を超えた取組がさらに必要である。
72	「目指すまちのすがた」のうち, 特に「5 子どもが喜びの中で生まれ育ち, みんなが子育てに夢を持つことができるまち」に共感できた。「子育てに夢を持つ」という視点は大事だと思う。
73	「目指すまちのすがた」にある「子どもの最善の利益を追求する」ことや「子どもが喜びの中で生まれ育つ」ことは, 当たり前のことであるが, 最も大事にすべき。
74	基本理念の「京都で育てよかった」, 「京都で子育てをしたい」と思えるまちづくりをぜひ進めてもらいたい。
75	「京都市未来こどもはぐくみプラン」は今後の子育てをしていく上で, とてもよいと思う。京都市で生み育てて良かった。生まれ育って良かったと親子で感じられるようなまちづくりを期待する。
76	プランの目指すものがすべて実現されれば, 子どもにとっても親にとっても良いものになると思う。ぜひ推進してもらいたい。
77	ぜひ安心して子どもを産み, 育てられるプランの推進をしてほしい。
78	働いている人にも働いていない人にも, 本当に京都で子育てしてよかったと誰もが感じられる京都市になってもらいたい。
79	「みんなが子育てに夢を持つ」というのはおかしいと思う。京都市の目指すまちのすがたの5つがあまりにも古い。こんなに妊娠, 出産, 子ども・子育てばかりを押されると逆にしんどい。
80	「子育てに夢を持つこと」, 「市民みんなが子育てに誇りと夢を持つことができ」, 「願いがかなえられるよう応援する」, 「風土づくりを進める」の意味が分からないので削除すべき。
81	将来を担う子供たちにとって, よりよい計画となるよう頑張ってもらいたい。
82	子どもの側に立ったプランとしてほしい。
83	保護者にとっての便利だけがクローズアップされないよう, 子どもの利益の視点が必要。
84	「子どもを育む」ことを考える際に, 子ども自身が, 自ら成長しようとする力を大切にするという視点でプラン全体の理念として持つことが重要である。
85	子どもや子育てにやさしい, ある程度の寛容さを持った社会づくりを進めることが必要。
86	保育園が建てられないことなどの理由に騒音があると聞いたが, お互いがお互いを認め, 支えられる関係作りが実現できないものか。
87	電車内で子どもが泣いていても温かい目を向けてもらえる社会になってほしい。

「京都市未来こどもはぐくみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
88	子どもの声が騒音になるとの声に対してどのような対策をとるのか。子どもの豊かな成長を促すためには、子どもがのびのび生活できる環境を整えることが必要ではないか。
89	子どもの最善の利益とは何か具体的に示すことは困難。早期教育・英才教育のように親が子どもの最善の利益を追求した結果、子どもの不利益となることもある。
90	「目指すまちのすがた」の「3『確かな学力』、『豊かな心』、『健やかな体』の調和をはぐくみ、子どもたちがたくましく未来を切り拓くことのできるまち」は日本語として表現が適切でない。（「調和をはぐくむ」のではない。） 「調和をはぐくみ」⇒「調和のとれた育成を図り」が望ましい。
91	ニーズ調査等の回収率は。
92	ニーズ調査の回収数、回収率や調査結果の詳細がどのような形で発表されているかも参考として注記すべき。
93	京都市子育て支援に関する市民ニーズ調査の中でどれだけ分析しているのか。働き方別のニーズ・意識など詳細は分析結果があるのであれば、示してもらいたい。
94	「子育てをしている今の気持ち」のアンケートで「とても楽しい」に相対するものが「とても不安」とあるが、「不安」の対義語は「安心」ではないのか。
95	市政を疑うアンケート。57頁図4-4「子育てと仕事の両立のために希望する制度や支援策」で一つだけに絞らせるのは行政の怠慢。一つだけに絞らせて少なく見せるのは許せない。門川市政の問題が現れている。
96	両立支援のために希望する施策のアンケート結果で%が低い取組はどうなるのか。
97	「子育てが楽しい、良かったと感じること（とき）」、「父親が子育てに関わりづらい理由」等のアンケート調査で複数回答できないという調査法は正確ではない。このような調査を基に作成された案では正確な民意を表すことができないと考える。
98	市民ニーズ調査は、回答方法、質問方法、調査対象などに多くの問題がある。
99	アンケートで希望する制度や支援策を一つだけ選ぶ方法は、求められる施策が少ない結果となるため間違っている。
100	アンケートの選択肢として、就労環境と子育てに対する意識というような次元の違う内容がそれぞれいくつか混在しており、一つだけを選ぶのに無理があるなど、アンケートとして無意味。
第1章 子どもを社会の宝として市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり	
(1) 子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都市はぐくみ憲章）の推進	
101	本プランが“京都市ならでは”の子育て支援策となるために軸となるのはやはり子どもはぐくみ憲章の理念である。大人のためではなく、子どものためのプランとなることを望んでいる。
102	京都市民憲章は素晴らしい取組だと思っています。ぜひ継続して取り組んでいていただきたいと思う。
103	子どもを共に育む京都市民憲章を理念の中心に据えている点が素晴らしい。
104	京都市はぐくみ憲章の理念が息づくまちづくりを希望する。そのためにも、もっと市民への周知啓発が必要。
105	子どもが育つ環境を整えるのは大人。大人に向けた啓発をもっと進めるべき。
106	「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都市はぐくみ憲章）の推進」の「施策を展開する今後の方向性」は、漠然としていて具体的なことが書かれていない。
(2) 子育て支援ネットワークの充実	
107	重層的に配置された各子育て支援施設・機関と、それぞれが受け持つサービスの役割の違いや重なりが可視化されるような、ネットワーク図のようなものが示されること、各施設・機関が連携すべき相手のサービス領域を相互に理解出来るような、顔の見えるネットワークづくりの推進を切望する。
108	行政（府市、府市教委）内はもちろん、地域の方々とも連絡を密にしてほしい。
第2章 次世代を育むすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり	
109	「第2章 次世代を育むすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり」の内容について、様々な角度から支援の内容が書かれており、良いと思った。
(1) ア 子育て家庭への支援	
110	様々な施策があり非常によいと思うが、自ら積極的に探さなくても役所だけでなく病院や保育所、スーパーなど目のつきやすいところに情報があれば良いと感じた。
111	子育て情報について、どこを見ればいいのか分からないことがあるので、子育て情報の一元化を希望する。
112	スマホアプリによる子育て関連情報の発信について期待する。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
113	行政からの情報は入手しづらく、先輩ママや横のつながりから保育園情報や子育て情報を入手できる。
114	スマートフォンアプリによる子育て関連情報の発信は良い事業と思う。
115	子育ての情報をもっと身近に手に入れたい。例えば、子育て中の親がよく使う公園の掲示板であったり、病院の待合であったりに、子育ての情報を配架するようにしてほしいと思うし、そういったところとの連携をとってほしいと思う。
116	スマホアプリなどを介した情報提供も必要であるが、身近な地域で人とつながる仕組みが必須。行政が提供するフォーマルなサービスだけでなく、地域の中にあるインフォーマルなサービスや情報にも繋いでいく「地域子育て支援拠点」の役割は、今までより一層重要になる。
117	子育てしやすい地域の風土を醸成することが必要なのはわかったが、それ以前に子育て支援サービスや福祉事務所を知らない家庭もあるので、まずは広報の仕方考えた方が良いと感じた。
118	「子育てに必要な知識を学ぶ経験ができてにくい」とあるが、現在はインターネットの普及により、情報過多の時代で擬似経験はいくらでもできる。
119	子育ては親育て、親の自分達が意識することで、更なる具体化した内容に成長していけると思う。
120	子育ての基本は家庭である。食育にしても教育にしても、学校や保育園任せにしているケースが多いのではないか。子どもを教育する前に、しっかりと親教育する必要があると思う。
121	「親育ち」の機会は非常に良いことなので具体的に進めてもらいたい。
122	子どもにとって住みやすいまちにするのはもちろん、子育てをこれからする若い世代の人に対して、子育ての魅力やみんなが抱える不安を伝えてもらえる機会が多くあればいいのではないか。
123	困ったときに市政の方からアプローチして支援する仕組みがあっても良いと思う。
(1) イ 子育てを支え合える地域社会づくり	
124	子育てを支え合える地域社会づくりは非常に重要な取組と考えており、子育てをする家庭が地域から孤立しないよう、しっかりと取り組んでいって欲しい。
125	ネットや育児本等、情報に振り回され、精神的に辛くなったとき、対面でスタッフや先輩ママより「大丈夫」や具体的なアドバイスをもらうことで、肩の荷が下りる事がある。
126	地域の人たちとの交流ができる活動をしてほしい。みこしなど。京都ならでは。
127	自分が子どもの頃は近所の大人や年代の違う人とも仲良くしていたが、今の子どもにはそういったつながりはあるのかと思う。
128	近所づきあいや、世代間交流を行って「無縁社会」問題に少しでも対策等をしたほうが良いのではないか。
129	子育てコミュニティの充実が必要
130	親同士が集まるサロンを増やしてほしい。
131	お互いがお互いに思いやれる世の中づくりを、まずは京都から発信していってほしい。
132	地域で子供を育てようという意識を育てる。
133	“ママ友”関係が不安
134	京都に古くから住んでいる住民と若者同士がうまく交流できる場があれば、互いの良さを活かせるのではないか。
135	もっと周囲が子育てを手伝える環境がいると思います。一家庭だけでなく、社会全体で子育てを応援できることが必要。
136	地域での交流が減っているのので、交流の場が減ってはだめだと思う。
137	少子化の進んでいる地域にこそ、人々との出会いの場を設けてみるべきではないか。
138	最近は世間の付き合いが薄くなってきていると思う。
139	子ども会などの町内の交流が減っており、団結力も乏しい。
140	子育て支援の施設等が各箇所点に点在しており、交流や相談などをより増加させていくことが重要
141	地域ぐるみで子どもを守る意識が希薄化し、無縁社会に近付いているのではと思う。近所づきあいというのはそういう意味でもすごく大切だと思う。
142	商店街などで子育てのお母さんが集まるサロンが増えてきており、核家族化の現代社会ではこういった取組をもっと増やしていかなければならないと感じた。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
143	昔は妊娠、出産した女性に対しては、近所の人がフォローしてきた。今は他人に対して無関心な人が多すぎる。もっとみんなが支え合える社会にしていけるよう、そのあたりのことをみんなに考えてもらえるプランにしてほしい。
144	親が働きやすくかつ子育てしやすい環境整備をお願いしたい。地域全体で子育てできるよう町になればいいと思う。
145	子育てと地域コミュニティの充実は切り離せないと思う。そこを重視した取組を期待する。
146	町内会の地蔵盆や子どもみこしなどの行事を通じて小さな子どもたちと接することができ、本当に地域で子どもたちを育てないといけないと思った。
147	家族の支援が得られない母親を支援する仕組みとして、乳幼児を持つ母親が集まれる空間づくりは、とても助けになることだと思う。
148	我が子でもよその子でも区別することなく、悪いことは悪いと愛情を持って叱ったりできるような社会の環境づくりが必要。今の社会にあった進め方で、子育てしやすい地域づくりを進めてほしいと思います。それはただ、行政サービスを手厚くすることだけではないと思う。
149	子育て世代が、お互いに支えあえる社会であってほしいです。
150	昔のように地域全体で子供達を見守り育てられるようになればいいなと願っている。大都市の中でも地域コミュニティのしっかりした京都なら可能だと思う。
151	子育ての孤立化を防ぐような取組が促進されるようなプランとなることを期待する。
152	高齢者が増えていく時代に向け、支える子育て世帯をしっかりした支援、サポートしていく必要が重要課題
153	母親の育児不安や育児負担が増大しているのではないかと不安に感じているが、プランにおいて地域社会づくりに力を入れ、子育て家庭にとって「身近な地域」で子育て支援活動の展開を図っていくとされていることに期待する。
154	行政の施策できっかけづくりをしていただけることは、特に京都のような都会で実家を離れて生活する家庭が多いところは、非常にありがたいことだと思う。
155	家事と仕事の両立は大変であるが、仕事、育児、家事など何かを諦めるというのも、本当の解決ではない。ご近所の協力やサービス利用で負担を軽減する段取り力も必要。
156	地域で協力して子育てをしやすい町づくりなどの案を出し合ったり、意識づくりなどをすることが必要。
157	京都の伝統的な文化に、もっと若者や子どもを巻き込む仕組みが必要ではないか。
158	保健センターや行政に行くまでもない相談を身近なつどいの広場に持ち込める。つどいの広場は実家の様な存在。
159	身近な地域に子育て支援の施設や事業があれば、子どもの成長に寄与すると思うので、これからも児童館やつどいの広場等の取組を続けてもらいたい。
160	幼稚園や保育園等を増やすなど地域子育て支援の充実は今までの施策としても必要であったので今後はさらに必要になってくると思う。
161	福祉事務所や児童相談所で相談できることは知っているが、敷居が高く、相談の内容によってどこに行けばいいのか分かりづらい。児童館や保育園・幼稚園等の地域の子育て関係機関で相談に乗ってもらえたり、適切な相談機関を紹介していただくと非常にありがたい。
162	身近な相談先として、つどいの広場は有効だが、家庭に訪問して関る機関も必要。行政(保健士等)がするのには限界があると思う。また、相談したい時に相談できるもっと身近な機関が必要(小～中学校区に1つなど)。
163	スマートフォンによる情報発信は社会情勢やニーズに合っているが、特設相談できる場も必要。地域の子育て支援拠点にアドバイザーなどを豊富に配置するなど、他の支援とも協力ができた方がよい。
164	「京都市子育て支援活動いきいきセンター」は、「つどいの広場」に名称を統一してはどうか。つどいの広場が広く市民に認知されることで真価を発揮出来るよう、プランの中で、固有の名称を取り上げて位置付けが明確にされることを期待する。
165	地域により支援施設のバラツキがある。
166	0歳児が遊ぶところ、つどいの広場がほしい。つどいの広場の利用時間を増やしてほしい。
167	0歳児の親子の行き場が少ない。
168	乳幼児が遊びにいける施設を増やしてもらえると助かる。
169	子育て中の親が育児に疲れたときに気軽に立ち寄れる、ゆっくり、ほっこりできるカフェのような場所があるとうれしい。
170	高齢者から遊びを教えてもらうような親も交えた世代間交流の場があればと思う。小規模で子育て親子も気軽に行けるものがあれば参加したい。
171	子育て支援施設やセミナーの充実はありがたい。ぜひ推進してもらいたい。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
172	保護者向けの子育て講座をやしてほしい。
173	一人では施設（つどいの広場）を利用しづらい。スタッフと面識があれば、行きやすい。
174	地域の子育て支援を幼稚園や保育園で行うことは必要だが、事業を職員の負担なく進められるよう、人員の増加が不可欠。また、実践されている場に役所の人も参加してもらい、現場を知ってもらいたい。
175	身近で安心できる場所で専門知識をもったスタッフに子育てを学べる場が必要。つどいの広場の数を増やし、専門知識をもった職員の配置や研修のための予算の確保をして欲しい。
176	子育て家庭への支援について、子育て中の親の相談や交流できる場は重要。父親が集まる場の提供だけでなく、SNSへの活用などを通じて時間や場所に制約されずに細く長く父親たちが交流できるようなツール、サービスを考えてはどうか。
177	地域の中でも認識や理解の差があり、何気ない一言で地域のサービス、子育てサークル等に参加しにくいこともありえる。そのような配慮をどうしていくかも課題だと思う。
178	乳幼児期において発達に遅れを感じている親子が行き場を失う傾向がある。
179	幼稚園が行う未収園児対象の「地域子育て支援事業」はどの部分に入るのか。
180	プランの中で幼稚園ができることの一つに地域子育て支援拠点事業があるのではないかな。
181	地域社会で子育てを支え合うという理念が、まず子育て世代以外に浸透することが大切。
182	地域の団体やNPO、企業などと行政の力が合わさることで、それぞれの強みを生かし、弱い部分を補完しあえる、そんなまちづくりができると思う。そういう連携に力を入れるべき、目を向けるべき。
183	企業と行政とがお互いにビジョンを共有し、児童福祉の政策を進めれば、京都にしかできない大きな力になると思う。
184	田舎に住んでいても、子どもが自然の中で遊ぶ光景を見かけなくなった。親に代わって元気なおじいちゃん、おばあちゃんが子どもたちに昔あそびや自然と楽しく遊ぶ術を教えてやって欲しい。
185	シニア層への地域子育てサポートへの参加や小学生下校時の「連れ去り事件」予防に下校見守り隊、里親制度理解など活用し、生きがいと子育て協働となる形が望ましい。
186	親（20、30代）と祖父母（60、70代）が協力して、子どもを共に育てていく環境の推進（若者の負担減と高齢者の子育ての経験を活かす）
187	すべては学校で学ぶものではない。昔のような身近なところでの人とのつながりの場に注目してはどうか。ファミリーサポート事業はそれに近いものがある。
188	仕事の関係でどうしても、子どもの面倒をみてもらう時間がでます。その時に対応できるベビーシッターのような制度はないのでしょうか。
189	子どもと大学生の交流の場を作ってはどうか。
190	今のご時世に、地域や隣近所で子育てを助け合うというのは現実的でない。それよりは、バラエティに富んだ子育て支援メニューがある方が良い。その代わりに、サービス利用者には応分の費用負担を求めるべき。
191	京北地域では、大学通学のため市内で1人暮らしを始め、卒業・就職・結婚しても京北には戻れない状況になることがおおいいため、地元に残れるように大学への通学対策を一考してもらいたい。
192	ファミリーサポート事業を京北地域でも利用できるように、京北地域内で“おまかせさん”募集と研修を行ってほしい。
193	ファミリーサポートセンターのおまかせさんの研修を京北で実施してほしい。
194	京都市にあって京北地域にない現行の支援策は最低でも確保を（学童や障害児童の放課後支援策やファミサポなど）
(1) ウ 「真のワーク・ライフ・バランス」の推進	
195	真のワーク・ライフ・バランスを進めるには、男性の意識の向上を図ることが必要。
196	男女が子育て、家事を共有すべきとの視点に賛同する。男性・女性それぞれに働きかけるのではなく、夫婦一緒に参加でき、家族単位で子育てについて考えられるような研修・機会を創出してはどうか。
197	男性が子育てに参加するためには、周囲の意識も変える必要がある。周囲から男性の育児参加が当たり前という雰囲気になれば、スムーズに参加できる。
198	「子どもを社会の宝として市民・地域ぐるみで子育てを支え合う、子育て支援の風土づくり」の取組がいろいろされているのは感じるが、子育てに重要な父親の意識や理解が低いように感じる。もっと企業をからめての取組が行われれば有難い。
199	男性の子育ての参画が非常に低い現状のためにはプランの取組はもちろん、日本全体の意識の改善を図る必要があると感じた。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
200	父親の育児参加がより一層促進されるような取組を進めてもらいたい。
201	少子化が進む一方なので、女性だけでなく男性も育児に参加できるような制度を充実させてほしい。
202	大企業から零細企業に至るまで、真のワーク・ライフ・バランスの考え方、思想を浸透させることが必要。
203	両親共に働きやすい環境があるとうれしい。
204	真のワーク・ライフ・バランスの推進には、安心して出産できる施策や制度が必要。まずは職場での環境を整える取組をプランに盛り込んでもらいたい。
205	京都の企業が国に先駆け、子育て中の父母が速く家に帰れるよう、時間短縮に取り組んで欲しい。
206	自分の子より仕事を優先せざるを得ないのが現状。仕事をしながら子育てしやすい未来になって欲しい。
207	最も身近な存在である父親の育児参加により、母親の子育てへの負担度合が大きく変わるので、長時間労働の防止等、仕事と家庭生活の両立や育児参加に向けた様々な制度の積極的な取得促進に継続して取り組まれることが望ましい。
208	「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のためには、まず、仕事と生活が両立するような職場環境づくりについて、企業への働きかけるなどの取組を着実に進めることが必要。
209	夫婦共働きのため、仕事をしながら、子育てできるような制度を作ってほしいです。
210	ウ「真のワークライフバランス」の推進における主な施策・取組の多くが広報・啓発・情報提供ですが、幼児・教育保育の充実以外の子育てしながら働く母親の働き方に対する具体的な支援策はないのか。
211	夜遅くまで働かなければいけない日本の社会では、たくさん子どもを産もうとはならない。子育て中の人だけでなく、家族に介護が必要な方がいる人も含めて、もう少し日常生活にゆとりのもてる働き方ができるように願う。
212	時短や半日などからの復帰できる制度が浸透してほしい。職場は、同僚や周囲から理解が得られるよう人員を増やすなど、配慮してほしい。
213	妊娠、結婚を機に女性が職場を退職せざるを得ないところが少なからず見受けられる。働く職員の意識、職場風土や職場環境をいかに改善していくのが問われているように思う。本プランの策定により、働く女性がいつまでもいきいきと活躍できる職場環境の向上につながることを望む。
214	ワーク・ライフ・バランスが大切であると思うが、形だけのワーク・ライフ・バランスになることのないよう、実態を十分に把握したうえで、適切な仕事量の調整と人員配置をすることが雇用主や組織上層部の責務である。
215	子どもが乳児期や幼児期を少しでも多く親と過ごせるよう、働く母親が時短しやすい環境や育児から手が離れてからでも社会復帰しやすい環境が充実している方が良い。
216	男性の育児休暇も当たり前にとれるようにしていくべき
217	日本の育児休暇制度についてもっと広めてほしい。
218	産休、育休制度が利用しやすくなるためには、まず上司や管理職に制度の説明や指導をすべき。
219	男性の育休の促進、子育てへの補助金をしっかりつけてほしい。
220	育休の取りにくさ、古い世代に多くみられる男性は働くものだという慣習など、男性の育児参加が難しい状況をどのように改善していくつもりか。
221	産休、育休に理解がある職場ならいいが、そうでないところだと取得できないのではという不安もある。
222	このプランが本当にすべて実行されるのであれば、支援としては十分であり、本当は企業側にもせめて小学校入学までの時短勤務、夜勤免除、時間外勤務の免除をお願いしてほしいと思います。
223	企業ぐるみで子育て家庭への優遇措置を強化して欲しい。
224	仕事と子育ての両立が困難と感じる家庭や、そもそも妊娠・出産に不安を感じる家庭が多い中、それらのサポートを推進しようとしており、ぜひとも進めてもらいたい。
225	自分ももっと育児に参加しなければならなかった。ただ、働きながら厳しい部分があるので、ワーク・ライフ・バランスを社会全体で進めないといけないと思う。
226	真のワーク・ライフ・バランスは重要。夫婦どちらかに子育ての負担を与えるのではなく、男性、女性が共に働き、育児しやすい環境が望まれる。
227	課題にある「仕事と子育ての両立が困難」、「子育て負担の母親への集中」に対する施策が理念だけで具体性に乏しい。具体的な施策の検討を。
228	子育てと仕事の両立を推進するため、働き方に関するワークショップや個人カウンセリングを実施してほしい。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
229	「ワーク・ライフ・バランス」が子どものためになるのか、今一度考えたいと思った。
230	第2章(1)子育てに生きがいを感じられる家庭・職場・地域社会づくりの「子育てに生きがいを感じられる職場づくり」とはどんな職場を目指しているのか?事例を挙げて説明してもらいたい。
231	「家事、子育て等における男性の積極的な参加の推進」「父親の育児参加」の「参加」という表現は、目指すまちのすがたに掲げられた「真のワーク・ライフ・バランス」が息づき、男女が子育てを共に担う主役として、安心して子どもを産み育てることのできるまち」に相反する。 【修正案】 男性が積極的に家事、子育て等に関わることができる環境・機運づくりの推進
232	女性の社会進出については、国レベルでの議論で市町村が左右されるのではなく、市町村レベルで検討すべき。
(2) 子どもの生活環境の整備と安心な生活が確保されるまちづくり	
233	小学生以上の子どもの健全育成のため、預かりの場や学校以外に、小地域での遊び、かかわりの場が必要。
234	子どもたち同士が学校外でも遊べる場があるとよい。遊べる場だけでなく、一緒に勉強(宿題)する場も学校側が提供できれば親も安心なのではないか。
235	こどもみらい館やあんしんこども館のような施設をもっと作ってはどうか。
236	室内用具があるみらい館のような施設をもっとほしい。(中で身体が動かせる所)
237	親の目がなくても、安心して子供が遊べるような地域社会が望ましい。
238	子ども達が安心して友人同士でのびやかに遊ぶことができるよう地域で協力して見守る仕組みが必要。
239	駅までの道が車道と歩道の区別がなく、車が多く、ベビーカーで行くには危険。
240	京都市は自転車の運転が荒いなど、交通のルールが守られていないと思うことが多い。通学する時なども、危険が多いのではないか。
241	電灯が少ないと不安
242	全員子どもにGPSを無償で提供してほしい。
243	治安の良い地域に住みたい。
244	子どもに安心してバスを乗せたいので、バス停の場所をもう少し分かりやすくしてほしい。また、町中マップをもう少し設置してもらいたい。
245	子どもが飛び出してきたりするとヒヤっとする。危ないのでなんとかならないかと思う。
246	道が狭く、子どもが危険
247	京都の街は道がとても狭いため、安全面で問題がある。
248	夕方の決まった時間に庁内放送用スピーカーから音楽を流すなどすると、犯罪予防のため帰宅を促すきっかけになるのではないか。
249	小学生の通学は親が安心できるような状況にすべきだと思う。例えば、車が多く通るところは、パトロールの人がついたりするとよいと思う。
250	子どもが公園で遊んでいるところを見かけた。その時、夕方が暮れる前にはみんなと一緒に帰り始めて微笑ましかった。
251	小学生のころからしっかりと自転車のマナーを学べる機会をより作っていくことが大切だと思う。
252	自然が豊かなまちに住むことは、子どもの成長に必要だと思う。命の大切さなどはそこから学べるのではないかと思う。まちづくりは人づくりとはよく言うけども、人づくりもよいまちづくりから始まるのではないかと思う。
253	若い所帯に安い住宅の提供をして、生活の支援や子供を生むための支援としてほしい。府住、市住は高齢化をして、若い人が入居しづらい。
254	駅のエレベーターやバスが利用しづらい。
255	授乳室が充実していない(福祉事務所やハローワークなどにもほしい)。
256	観光シーズンになるとベビーカーや妊婦には市バスが利用しにくくなるので、本数を増加する等の工夫をしてもらいたい。
257	自然がありつつ、生活に便利な町になるといい。
258	男性トイレにもベビーベッドを設置するなど、男性でも子育てのしやすい社会を作してほしい。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
259	おむつをかえるベビーシートがある所を知ってからでないと、小さな子どもを連れて外に出かけることができない。お店や駅など、あらゆるところでそのようなハード面を整備してもらいたい。
260	車の免許の更新に託児所がほしい。
261	電車等で子ども優先の車両を作ったりしてほしいです。
262	駐車できるスペースをもっと増やしてほしい。
263	自転車に乗りやすいまち（自転車専用道）
264	子ども用のトイレが少ない。
265	道にごみ箱を置けばきれいな街をつくっていけると思う。
266	公園の整備、充実。砂場にガラスの破片や野良猫のフンなどが落ちていないかと気にせず、衛生面でも安心して遊ばせることのできる公園が近くにある状態が望ましい。
267	最近、外で遊ぶ場所が少なくなり、子ども同士の仲間も少ない気がする。
268	今はいろいろ遊びが制限されていると思うのですが、グラウンドを増やしたり大きくしたりすることはできないか。
269	子どもがもっと遊べる場所の充実
270	公園を増やす、遊具を充実させるなど、外で遊ぶ楽しさを子どもが体感できるようにしてほしい。
271	公園の安全性の確保や街灯をしっかりとつけるなどしてほしい。
272	ボール遊びできる公園を増やしてほしい。
273	自由に遊べる遊具のある広場がほしい。
274	手軽に行ける空き地がほしい。
275	安全に遊べるまちづくりをしてもらいたい。
276	公園で不安なく、楽しく安全に遊べる環境がいい。
277	少子化で子どもが減っているので、公園や子どもの過ごす環境が少なくなるのは当然
278	球技（サッカー、野球等）ができる公園があるといい。
279	最近外で遊ぶことが減ったと思うので、学校のイベント等を増やして外で遊ぶ楽しさを子どもに伝えてはどうか。
280	京都の街中では球技が出来る場所が少ないので、家の中で遊ぶ子どもが増えているのだと思う。
281	もっと外で遊ぶ環境があってほしい。
282	公園が少ない。
283	ボール遊びができる公園をもっと増やしてほしい。
284	公共施設の利用をもう少し自由にしてほしい。
285	ネット予約ですぐ使える運動場、体育館などを。
286	公園が多い街がいい
287	公園にごみやガラスの破片のような危ないものが落ちてると安心して遊べないので、公園の整備をしてほしい。
288	公園等の遊び場を増やし、多くの遊具を設置してほしい。
289	子どもが遊べるところがたくさんほしい。
290	子どもたちがもっと外で遊べるように、近隣住民にも声をかけてほしい。
291	子どもたちが自由に遊べる場を作るべき。
292	公園を増やしてほしい。
293	公園の遊具にもっと面白いものがほしい。
294	動く遊具がなくなってしまって寂しい。
295	公園の柵を高くするなどしてボール遊びできるようにした方が、子どもの運動不足も解決するのではないか。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
296	公園でボール遊びが出来る場所が少ないと思うので、柵などを作って遊べるようにしてほしい。
297	遊び場が少なくなってきたのに、公園でのボール遊び等が禁じられているのは良くない。
298	公園をもっと明るくした方がいいのではないかな。
299	公園の遊具の安全性を高くして、残していけば、外で遊ぶ子ども達も増えるのではないかな。
300	広くて球技ができる場所が少ない。
301	外で遊んだりしやすいよう、制度というより環境を整えてほしい。
302	子どもが外で遊ぶ機会があまりにも少ないのではないかな。
303	勉強は大事であるが、小さな頃に外で遊び、経験を積んでほしい。
304	街中の公園では十分にボール遊びができないと思うので、無料の施設あればいいと思う。
305	子どもが遊びづらくなってきている。
306	気軽に遊べる公園や子どもが集まる場所、イベントが少ないと思う。
307	公園でのボール遊び禁止など、子どもに対する禁止事項が多いかなと感じる。
308	京都市は公園が多いが、最近ほうるさいからやめなさいと親が外で遊ぶのを止めていると聞く。こんなことでいいのだろうかと思う。
309	子どもの遊びを通して学べる。そんな施設や場所がいっぱいあるといいと思う。
310	公園で思いっきり遊べるのが少なくなったことは残念である。子どもを育てるための土壌として、地域ごとにそういった協力をしてもらえるよう、働きかけるべきではないかな。
311	インターネット、スマホなどを子どもに与える場合に、ペアレンタルコントロールについて情報提供や、場合によってはソフトを配布するなどして、不適切なサイトの閲覧を制限したり、時間を制限したり、また、子どもがどんなものを見ているのかなど、関心を持ってもらうことが今後の情報化社会では重要になるのではないかな。
312	ネットいじめやネットによって子どもが犯罪に巻き込まれる例がよく報道されており、怖いことだと思うので京都市の取組ももっと進めて欲しいです。
313	勉学のさまたげになり、邪魔になるので、小・中学生がスマートフォンを持つのは駄目だと思う。
314	今は幼少期からケータイにふれたり、留守番をしたりする子が増え、家族のコミュニティが欠如している。
315	子どもは少々ほっておいてもたくましく育っていく。大切なのはその環境だが、環境を変えるために現場の声にどの程度耳を傾けているのか。
(3) 子育て家庭への経済的な支援	
316	子育てにはお金がかかるので経済的な負担が軽くなるようにしてもらいたい。
317	経済的な支援について、京都市でいろいろな施策があることに感謝する。国レベルでの施策について、京都市からも国に強く働きかけてもらいたい。
318	お金を子育て世帯にばら撒いてほしいとは思わない。必要な時に必要なだけ支援してもらえれば十分である。プランのとおり、本当に必要なところにお金を使ってもらいたい。
319	経済的支援について、児童手当で以外に制度を増やしたり、対象年齢を拡大することが必要であると感じた。
320	お金の面がすごく気になる。今の時代、何人も育てられないと思う。少子化とか言われているけど何か対策とか考えていることはあるのかなと思う。
321	就労しているけれども、生活保護受給まではいかないような家庭が最も厳しいのではないかなと思うので、その方たちへ新たな支援制度や衣食住の支援などで、きめ細かく対応できたらいいのではないかなと思う。
322	京都市には、子どもが生まれたときの補助金の制度はあるのか。
323	子ども一人育てるのにもお金が相当かかるので、支援金があるといい。
324	第2子以下に、もっと手厚い保護を。
325	結婚しなくても、子どもを産んだ時に保護をしてほしい。
326	子どもが多いほど給付が増える制度が必要

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
327	第二子を産む時の費用の軽減策があるとよい。
328	子育て家庭への経済的支援を充実させてほしい。例えば、子ども医療費助成の拡充や保育料の減免などについて検討された。
329	就労の多様化に伴い、経済的支援としては、民間の一時預かりを利用するような形での就労をしている保護者に対しても今後何らかの利用しやすい補助制度が整備されることが望ましい。
330	ニーズ調査結果と同様、行政に対して経済的支援の充実を最も望んでいる。今後も国レベルで実施すべきと考えられる施策について、国に強く要望して欲しい。
331	大学生への奨学金の拡充
332	交通面での補助等がほしい。
333	バス代がかからないようにしてほしい。
334	市内の高校に進学の場合、平日学生証でバス運賃を無料にしてほしい。
335	乳幼児の医療費は就学前まで対象にならないか。他都市では対象になっているところがある。
336	こども医療の1医療機関200円負担の対象年齢を引き上げてほしい。
337	小学生の医療費を無料とは言わないが、3,000円を1,000円程度にしてもらえると通院しやすくなる。
第3章 子どもを安心して生き生きと育てることのできるまちづくり	
(1) 思春期における次世代を育む意識づくり	
338	第3章(1)の現状と課題で、「次代を担う意識を育てる」との表現があるが、「意識を高める」が適切ではないか。(子どもが子ども自身の「意識を育てる」という表現に違和感を覚えた。)
(2) 思春期のこころとからだの健康づくり	
339	思春期の反抗期等は子どもにとって必要だと思う。そんな時、地域でそっと支えてあげられる社会を目指すことが大切。
340	経済的な面も含めて、いい家庭を作るために必要なことを若いうちから知れる機会があるといい。
(3) 安心して妊娠・出産できる環境づくり	
341	アンケートに問題がある。 本冊72頁「未成年者の煙草を吸うことについて」の「吸えなくてもしかたがない」とはどういうことか。こんなアンケートをして何になるのか。 本冊75頁「母子保健に関する意識調査－不妊について悩んだこと」若い母親は少なく45歳以上の12人は多いのはあたり前。無意味なアンケート。
342	「少子化、晩婚・晩産化だと妊娠・出産・育児のイメージを持ちにくくなる」との表現があるが、なぜそうなるのか。子どもを産んでいない女性、晩婚・晩産の女性に対して侮蔑的に聞こえる。
343	第3章(3)安心して妊娠・出産できる環境づくりの「現状と課題」について、少子化、晩婚・晩産化について不快感を感じさせる表現となっているため、表現方法をもっと検討すべき。
344	妊娠・出産は命がけで、子育てに安心はない。女性、生まれてくる生命を軽視する「安心して妊娠・出産」という表現は削除すべき。
345	「妊娠・出産・産褥期」とあるが、「産褥」という言葉は一般的には馴染みがないのでは?「産後」ではダメなのか。
346	初めての出産は不安なもの。親などが傍にいても、不安を相談できるような社会になればいい。
347	安心して妊娠をするために環境を整えることと、子育ての支援に矛盾が多く感じる。
348	第3章の(3)における職場内『マタハラ』についての現状改善がなくては、両立や女性の社会進出は実現せず、このプランの実現もないと考える。
349	不妊に対する悩みが増加している原因を、晩婚化・晩産化と断言していることは問題である。
350	「安心して妊娠、出産できる環境づくり」は少子化対策や虐待数の減少にもつながる大切な取組だと思う。男性が積極的に子育てに関わる環境づくりが一番理想的だが、プレママ事業、こにちは赤ちゃん事業に引き続き、4ヶ月以降も家庭訪問の制度を設けたり、にんしんホットナビのような相談窓口を充実させたりすることも、虐待数の減少につながると思う。
351	医療費が高い。妊娠中の健診の必要をもう少し負担してほしい。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
352	晩婚化、核家族化が進む中で、女性が出産するときの周りの支援は昔と比べて、少なくなっている。「安心して妊娠・出産できる環境づくり」や「乳幼児の健やかな発育・発達と育児不安を軽減するための支援」における施策・取組をぜひ進めてほしい。
353	安心して妊娠・出産できる環境づくりについて、産科体制を安定的・継続的に確保するための視点も必要ではないか。
354	「少子化や晩婚化、晩産化によりイメージを持ちにくく、多くの妊婦が不安を抱えている」とは何に基づく記載か。
355	子育てを「父母の不安や負担」とする表現は適切ではない。
356	「育てにくさ」は「一部に発達障害などの要因」とあるが、これは障害者への差別的偏見ではないか。
357	晩婚化、晩産化が進む中、不妊治療を受けている夫婦が安心して治療に取り組めるよう国以上に治療費の助成を充実してほしい。
(4) 乳幼児の健やかな発育・発達と育児不安を軽減するための支援	
358	妊娠中の保健センターからの家庭訪問の際に、保育所入所の現状についても説明してもらいたい。
359	母子に負担がかからないよう、乳児検診での質問や医師の検診の内容を改善してもらいたい。
360	保健所の乳児検診の質を改善してほしい。
361	スマイルママ・ほっと事業について、分娩を扱っていない助産院等の施設でも開設できるよう、方針を考慮してほしい。
362	出産した際、保健センターの職員が自宅に来て、悩み事などの相談を聞いてくれたことは、大変助かった。節目節目に専門的な人と話ができれば、心強い。
363	子どもの育てにくさという表現がよく分からない。育てにくさの理由に「発達障害なども考えられ」というのは、おかしくないか。
364	自分から外へ発信できない人達にも支援が届くような様々な事業も展開してもらいたい。例えば、独居老人の家庭訪問を地域の方がされているように、子育て世帯の家庭訪問もあってはいいのではと思う。
365	妊娠に対する価値観や情報が未だに保守、固定化している部分が見受けられる。特に、男性に対しての情報啓発が進めば、不妊に悩む女性の精神的負担は軽減するのではないか。男性の妊娠前からの子育て参加を促す必要があると思う。
366	出産後の子育て支援施策や地域の情報について、産院等の連携で出産前から知ることができれば、選択肢が広がりがうれしいです。
367	「子どもの育てにくさ」＝発達障害と捉えられる文章には問題がある。
368	乳幼児健康診査は子どもの発達など早期発見に繋がるが、中には健診の結果が分からない、受け入れられない、不安になるなどの保護者もいるため、保育園や児童館と連携することで相談しやすくなり、今後の施策として重要になってくると思う。
369	子どもを育てる方法が知りたい。子どもに対してしてはいけないこととか、悪い影響を及ぼすこととか。子どもが今ちゃんと育ってないという問題があるのはそういうことだと思う。
370	子どもの医療についての知識が、新しくお母さんになる人には必要だと思う。保健所などから教えていただきたいと思う。
(5) 子どもの病気や事故に的確に対応できる体制の充実	
371	本冊 85 ページの年齢別に見た死亡順位の表については、平成 24 年の統計データなので、最新データに更新してもらいたい。
372	第 3 章 (5) については、ちいさな子供の臓器移植などで海外での医療をうけなくてもよくなる取組だと素晴らしいと思う。
373	京北病院の小児科の診察日を拡大してほしい。
374	子どもに打たせておく予防接種等を教えてほしい。
375	インフルエンザなどまだまだ重要なワクチンが有料なので、そこを改善して欲しい。
(6) 望ましい食生活を育むための環境づくり	
376	食生活を育む環境づくりのところで、妊娠期～授乳期、幼児期、学童期などの区分で献立や注意すべきなどのアドバイスが聞ける機会があれば、参考になると思う。
377	14 ページ中段の食育に関する記述について、「…子どもに対して食育の担い手となるよう支援していく取組が必要」とあるが、現行の文章では、子どもを食育の担い手としてすぐに育成しようとしているように受け止めることもできるので、将来を表現する工夫ができないか。
378	「早寝早起き朝ご飯」は、実際にどのように対応していくのか、どの機関がどうするのがわからない。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
379	「望ましい食生活を育むための環境づくり」の問題には、親の食生活や働き方等の視点も考慮する必要があるのではないか。
第4章 安心して子育てできる幼児教育・保育の充実	
380	役所は、保育士の過酷な勤務状況を理解し、それに見合う給料体系も考えて欲しい。
381	保育士が結婚して、子どもを生んで働き続けられる環境（補助金）を作ってもらいたい。
382	大切な幼児期の受け皿である保育園、幼稚園の職員・教員の充実を求める。
383	保育園の職員が希望を持って生き生きと働けるよう、処遇を改善してもらいたい。
384	預かり保育や休日保育、夜間保育などについて預ける側の保護者にとっては良い物かもしれないが、預けられる側の保育者の勤務体制はとて厳しくなる。保育者の扱いについても十分に話し合ってください。
385	京都市は「待機児童」の定義が甘いのではないか。保育園に入所できず、育休を延長している人が周囲にたくさんいる。年度途中でも安心して保育園に入れるよう、早急に改善して欲しい。
386	京都市でも年度途中では保育園に入りにくい状況であり、待機児童ゼロと言い張るのが納得できない。
387	保育士の数を増やし、待機児童が解消できるよう、市から補助金を出してもらいたい。
388	公営保育所から民間保育所への移管は後退である。
389	市営保育所を民間移管する必要はない。
390	市営保育所をなくすことは伝統ある保育の現場をなくすことであり、絶対あってはならない。
391	保育所入所の情報を得るのが大変。福祉事務所で新制度や新設園、他区の園の状況を聞いても、情報がないとのことで、十分な説明がない。
392	保育園の友だちが同じ学校で学べるよう考えてほしい。
393	公立幼稚園に通っているが、利用者負担額が所得によって決まることに違和感を感じる。
394	「保育や教育を提供する」という表現に違和感がある。「教育や保育を保障する」の方が違和感が和らぐ。
395	幼稚園からの集団生活でも、小学校に向けては充分である。
396	新制度の保育事業サービス等の利用についての情報が入ってこないとの不安の声がある。行政がその状況をしっかり把握してもらいたい。
397	新制度では、預かるサービスを利用しないと損という雰囲気にも煽られ、働かざるを得ないわけでもないのに子どもを預けてしまい、親の子育て力を奪うのではないかと危惧する。
398	育児制度がある企業や昼間里親制度の充実が京都市民にとっては望ましい。
399	地域型保育で0～2歳をいくら増やしても3歳で出なければならず、親の不安が増えるだけである。
400	0～6歳の市営保育所を守ってもらいたい。
401	保育園は全て延長保育しているのかどうか。児童館も定員オーバーと言われている。京都で子育てしたいと思えるよう、予算を有効に使って施策を実施してほしい。
402	病児・病後児保育施設をもっと増やすべき。
403	幼稚園の預かり保育の確保方策で、1号認定は0人とされているが、利用はどうなるのか。
404	プランの中に幼稚園の部分を増やしてほしい。
405	保育園の園庭を十分確保し、のびのびと遊べる環境を整えて欲しい。
406	保育園から認定こども園に移行する際には、保育が必要な児童の受入枠を減らして1号定員の枠を設けることを制限することは理解できるが、幼稚園からでも保育園からでも、現在の受入枠を維持し、なおかつ面積や職員配置基準を満たす限りにおいては、1・2・3号すべての定員を設けることができるようにしてほしい。
407	保育の需要が供給を下回っている地域において、保育園が認定こども園に移行し、1号定員を設定する場合、1号の量が過剰とならないよう、定員の数%に制限した方がよい。幼稚園から認定こども園に移行する場合も同様に取り扱ってほしい。
408	認定こども園に入園している子どもの保護者が無職となるなどにより保育が必要でなくなった場合でも対応できるよう、1号認定の定員を一定枠は設けることができるようにしてほしい。
409	就職が決まってからの保育所入所ではなく、就職活動のための保育所入所も受け付ける。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
410	特別支援が必要な児も健常児と同様に終日保育が受けられるしきみを作る。(現状では障害児を抱えるお母さんは働けない)
411	待機児童の定義をはっきりし、入所希望者が希望の園に入所出来る様にしないと、子どもを持つ親が仕事を探すこともできない。
412	「質」, 「量」両面の幼児教育・保育の充実により、利用者が自らのニーズに合ったサービスを的確に選択できるよう、きめ細かな情報提供や利用調整等の利用者支援をより一層推進してもらいたい。
413	保育所の待機児童が多く、母のストレスの大きな要因となっていると感じる。定員の増加だけでなく、認可保育所が各地域に適正に配置される必要がある。障害を持っている子が入所できる保育園も少ない。レスパイトを兼ねて預けられるような施設が増えるといいと思う。
414	本冊97頁「保育を…求められています」の日本語の意味がわからない。
415	行政サービスは、保護者が利用しやすい時間帯や土・日・祝日の対応の必要性を感じる。また、相談にまとめて対応してもらえる窓口や分かりやすい広報の仕方も課題である。
416	保護者の様々なニーズに応じた保育時間の設定について書かれているが、子どもを第一に考えると、企業側が更に就労時間、子育てに関して理解、協力をしていく必要がある。
417	様々な子育て支援を活発に利用できる方より、受身的な親の子どもの支援策のむずかしさがあるのではないかな。
418	発達障害児の支援策で、本当に子どもに大切なのはなにか?ということ親に理解、共通意識をもてるようになるまでが現場ではむずかしい。
419	保育士養成校も資格取得レベルの向上で学力・技術をアップし、現場へ出るのが望ましい。
420	幼児教育・保育の提供体制の確保及び質の向上については、将来、箱もののみ大量に余剰とならないよう注意が必要である。
421	待機児童の問題が解消できるように今後も継続して施設・制度の充実を行ってほしい。
422	消費税による財源確保も含め、新制度の先行きが不透明な中、当面は私立幼稚園と意見交換しながら、教育の良さを残しつつ預かり保育の充実を図ることが重要。
423	3歳の子どもを持つ親として、新制度で実際に何が変わるのかということがなかなかわからない。積極的な情報発信を一層進めてほしい。
424	夫婦共働きで保育園の送迎をする必要から、希望する保育園に入所させたいので、配慮してもらいたい。
425	自宅近くに私立幼稚園があるが、夫婦共働きなので入園させることができない。一時預かりでも良いので、自宅近くの幼稚園に入れることができれば良いと思う。
426	どの保育所に空きがあるのかの情報をわかりやすく伝えてもらいたい。また、家の近くに「空き」がない場合は送迎の補助などがあると便利だと思う。
427	「児童」情報に関する提供場所の確保を積極的に行うべきだと思います。時事ネタとして「待機児童」などは注目を集めていますし、それだけ市民の関心も高いと思うので上記のような応対が望まれると思いました。
428	病児保育事業については、現在もニーズに対応しきれていない状況にあると思われるので、特に市内中心部の拡充が必要と考える。
429	共働き家庭として、子どもを預かっていただいた保育園には、ありがたい気持ちである。保育を希望する人が預かってもらえる体制づくりに取り組んでもらいたい。未来ある子どもたちに税金を投入することは必要なことだと思う。
430	低年齢児保育、夜間・休日・延長保育、病児・病後児保育、障害児保育、放課後児童クラブ等母親の就業形態に応じた柔軟な子育て支援体制の拡充。夜間も含め、就労時間の多様化に対応した施設の充実。24時間対応の病児保育施設の充実や残業で遅くなくても安心して預けられる留守家庭児童施設の充実。
431	待遇改善を図らないまま保育士の量と質双方を追い求めるのは無理がある。具体的手法を検討してはどうか。
432	短時間保育の需要にこたえようとすると、収入増には見合わない程、保育現場の負担が増加するのではないかな。
433	京北地域には幼稚園やこども園がないため、保育所入所要件に当たらない就学前児童の集団生活・活動の場がない。保育所の入所要件を過疎地域における施策として具体化してほしい。
434	京北地域の公営保育所は、児童数が減少となっても最低3か所は確保してもらいたい。
435	京北の子どもは減っているが、保育所は減らさないでいただきたい。
436	現在市内には、認定こども園が1か所しかないと聞いたが、何故か。新制度の下では、認定こども園への移行が進むのか。国が制度を変えても、現場がすぐに対応できるわけではない。京都市として主体的に考えてほしい。
437	第4章における「認可保育所の整備」における実質的な改善が設備のみではなく、人材や資格取得の内容にも深く寄与していると思う。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
438	事業所内保育を充実してもらいたい。
439	保育の新しい制度について、わかりやすいホームページやパンフレットをお願いしたい。
440	第4章の(1)幼児教育・保育の提供体制の確保及び質の向上については、「質」という点でも、取組を推進して欲しい。そのためには、保育士、幼稚園教諭といった人材の確保もそうだが、そうした教員に対して研修等を行い、教育の質を向上させるということも大事と思う。
441	中京区に住んでいるが、実際問題として、これから中京に新しい保育園を建てることはできるのか。区域が多少違ってても臨機応変に保育園を建ててもらった方が、市民としてはうれしい。
442	京都市独自の昼間里親が来年度から国の小規模保育事業に移行することにより、京都市の責任が曖昧になることに不安を抱いている。長年京都市の子育ての両輪とされてきた昼間里親は、新たな小規模保育事業と一線を画すものであり、利用者にはこれまでの経緯を含めた情報提供を行ってほしい。併せて、認可保育所と同等に位置付けてもらいたい。
443	京都市では、給食について、完全自園調理としてほしい。
444	待機児解消だけのために保育施設を増やすことは危険。昼間里親として培ってきた保育が生かされ、新制度導入後も昼間里親の基準を生かして、子どもたちが安心して過ごせる場所を守り、充実させる事ができるようにしてほしい。
445	保育料が高い。特に、生活保護を受けずにがんばっているひとり親家庭の保育料を安く設定する方法を考えてもらいたい。
446	両親とも就労できるよう、どんな家庭の子も等しく保育を受けられる環境を整えてほしい。
447	新制度の下でも、国や地方団体で今の保育の水準を保つ等最低基準の保障はしてほしいです。
448	ひとり親家庭に対しては、就労時間に合わせて子どもを預けられる支援が特に必要となってくるのではないかな。
449	通常の保育のみでなく、病児や病後児の受入についても、今後、頼れる親族がいない家庭や、母子・父子家庭や共働きの家庭への支援として必要となってくるのではないかな。
450	保育園、幼稚園、昼間里親、小規模保育等どこに行っても、すべての子どもたちが格差のない環境で、京都市の責任の下、育まれることを強く希望する。
451	職員の処遇の向上を図ってもらいたい。質の向上は「研修」だけで出来ると思える考え方が許せない。
452	京北には幼稚園がないので、3歳以上は希望者が入れるようにしてほしい。必要な時期に集団の経験が積めない。
453	地域の広さから、3つの保育所はこのままで運営してほしい。幼稚園がない中では、誰でも入所出来る用にしてほしい。
454	保育園、幼稚園の充実(公立の保育所が西京区にあれば良い)
455	保育料をもう少し安くしてほしい。
456	ハローワークに行くと、保育園に入っていないと仕事ができないと言われ、保育園に行くと、仕事をしていないと預かれないと言われる。
457	保育においては、「質」「量」両面の充実が大切。どうしても「量」によって「質」が落ちてしまいがちなので、保育現場の生の声を聞きながら進めてほしい。
458	ハンディを持った子どもを受け入れる保育所もとても少ないと聞く。
459	利用者、保護者のニーズに応じたサービスを提供することとされているが、子どもにとってどうかを共に考えられる保育園が必要である。
460	子どもを育てながら働くという当たり前のことがなぜこんなに大変なのか。保育士の処遇もひどすぎる。
461	休日保育を実施するところが増えて欲しい。併せて職員の待遇も上げてほしい。
462	保育園や学童クラブ、小学校での障害を持ったこの受け皿が増えて、それが当たり前になって欲しい。
463	幼児教育・保育の提供体制の確保及び質の向上について、「質の向上」の中身がよく分からないが、保護者として大いに期待している。
464	今後、京都市として認定子ども園の設置を推進・支援していくのか。
465	保育の量の見込みが掲載されているが、量だけでなく、保育の質や地域性等にも配慮する必要があるのではないかな。
466	「質の高い幼児教育・保育を提供する」ための安定的な人材確保の方策や人材育成、資質向上のための補助金について具体的なことが書かれていない。
467	保護者のニーズに応じた事業(時間外保育、一時預かり、病児保育等)の「更なる充実」が量の拡充だけが最優先のように感じられる。
468	「きめ細かな～」という日本語を使用するのであれば、より具体的な内容の提示が必要。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
469	「質の向上」や「量の拡充」に具体的にどのように取り組んでいくのか明確にしてほしい。また、そのためにどれ程の資金を設定しているのか。
470	保育士のなり手がいない中で、どう人材確保を推進していくのか。
471	昼間里親がこれからも継続発展していくことを願う。
472	待機児童解消は認可保育所の充実などで対応してほしい。
473	延長保育利用者数の増加が予想されているが、現在でも長時間保育の子どもが多く、保育士の人数が不足しているので、必要な予算を確保してほしい。
474	保育士不足や非常勤が多い状況の改善についてどう対応していくのか具体的に聞きたい。
475	「質の向上」の内容を具体的に示してもらいたい。
476	待機児童ゼロなどの目標も大切だが、今の幼稚園や保育園への支援も大切である。
477	保育園の充実，無料化
478	ベビーシッターの充実
479	託児所の充実
480	幼稚園，保育所の整備で待機児童をなくしてほしい。
481	働きながら子どもを預けられる施設があれば子どもができて安心。待機児童が出ないくらい豊富にあればと思う。
482	職場に子どもあずける場所をつくることで、共働きの人でも子どもをつくろうという気になるのでは。
483	幼稚園等を増やしてほしい。
484	京都市が提供する安価なベビーシッター制度などがあればよい。
485	保育園，幼稚園を増やしてほしい。
486	保育所など希望するところに入ることができる体制を。
487	待機児童ゼロの達成を今後も続けてほしい。 自分が親世代になった時の子育て環境を考えても、安心して子育てできる環境が整ってほしい。
488	保育所が充実するといひ。
489	保育所の充実
490	保育所や幼稚園の数は増えているのか。
491	幼稚園，保育園を新設するのではなく、既存の場所（お寺）に預ける制度を設けてはどうか。
492	子どもを産む前から保育園を捜したりしなければならぬのは、子どもを産むことにストレスをかけることになっているのではないか。
493	幼稚園や保育所はいくつあるのか。
494	小学校の遊具が減ってきているという話を聞いたがなぜか。
495	少子高齢化をなくすには、まず幼稚園の数を減らして、保育園の数を増やすべきなのではないか。
496	幼稚園や保育所はいくつあるのか。
497	子育てしやすい環境をつくるため、保育所の数を増やしたり補助金を充実させることが必要
498	待機児童問題
499	昔よりも働く女性が増えて子どもの世話をすることが大変になっておるので、それを助けられることがあればいいと思う。
500	今後女性の社会進出が一層増加するに当たり、夕方～夜間にかけての保育・児童預かり等が重要になってくると思う。
501	京都で安心して子育てができると思ってもらえるように保育所等を増やしたりしてほしい。また、兄弟が同じ所に入所できるような配慮もあった方がいいと思う。
502	児童館や保育所ごとの取組に差が出ないよう、取組について共有できる場やシステムが必要であるし、それを作るのは京都市の役割である。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
503	民間保育所の増加は一方で保育の多様化という長所があるが、一方で経営的観点の重視から、保育の内容が子どもからの観点でなく保護者からの観点を重視したものとなる傾向がある。 保育という面の大切さを再認識し公的な機関からの指導定期的な管理をお願いしたい。
第5章 放課後の子どもたちの居場所づくり	
504	学童保育の障害のある子が入れるのか心配。40人定員となることで利用を継続できるのか。
505	現在進められている4年生までの「学童クラブ統合育成事業」および長期休業中の5・6年生対象「はあとステイ事業」における介助者確保の困難を考えると、新制度の開始以降が心配。
506	1学童当たり40人となると、同じ学校で複数の学童保育ができることになるのか。その場合、利用する施設の分け方はどうなるのか。
507	学童保育が6年生までに拡大されても、新1年生の申込みが多ければ、実質的に利用できないのではないかと。
508	現在利用している学童保育が分割された場合、どちらにいくかを選択できるのか。また、人気のある学童とそうでない学童が生まれるのではないかと。
509	定員40名、小学校6年生までの受入により、現在通っている学童に通えなくなることはないかと。
510	小学校6年生までの受入に対応できるよう、子どもたちをしっかりと見守れる人を配置してほしい。
511	学童保育の充実はありがたいが、逆に今の環境が後退することのないようにしてもらいたい。
512	学童保育の新しい基準を今の施設に適用するのは難しく、児童数を絞るという発想にならないかと懸念する。施設整備等の予算の確保を。
513	1学童当たりの人数オーバーで学童を分割することになった場合、子どもの生活に影響が内容、施設を選択できるようにしてほしい。
514	学童クラブの対象年齢拡大により、平成31年度までに1館当たり28名登録数が増えることとなっているが、具体的な対応方針を知りたい。
515	学童保育の対象が6年生までとなることはありがたいが、人数増による現在の取組ができなくなったり、利用者負担が増えたりすることは困る。
516	1学童当たり40人となることで利用者負担が増えるのは困る。
517	学童保育の定員が40人になることによる実施場所の確保のために利用者負担が上がるのは困る。
518	対象年齢の拡大は希望するが、待機児童の発生や利用者負担の引上げは困る。
519	学校内に学童ができることは便利だが、保育内容のレベルが低下したり、利用者負担が増えるのは困る。
520	学童保育の利用者負担の値上げは困る。
521	学童保育の費用負担を軽くしてほしい。
522	学童保育のクラス増により利用者負担が増えるのは困る。
523	学童保育の利用料の値上げ、職員の質の低下は絶対避けてもらいたい。
524	学童保育が40人定員、常勤職員配置等は望ましいが、これ以上の利用料値上げは心配。負担増により本当に必要な児童がこぼれ落ちるのではと危惧する。
525	学童保育の人件費・工事費等の負担は保護者が負うことになるのか。
526	対象学年拡大のしわ寄せが職員に向かい、安心して働けない職場となることは困る。
527	もっと学童と学校、地域の連携を図ってもらいたい。
528	学童保育の見直しは、現場、現状を見て考え、決めてほしい。
529	学童保育の基準条例が、保護者、子ども、職員にとって良いものとなるよう願うが、施設ごとに統一した条件となるよう、細かい部分を詰める必要がある。
530	学童保育の職員の処遇を落とさないようにしてほしい。
531	夏休み等の長期の休みのみの学童保育を実施してほしい。
532	学童保育を夏休みだけ利用することはできないかと。
533	放課後ほっと広場を充実させてほしい。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
534	学童保育を利用している児童館が狭いので何とかしてもらいたい。
535	学校内に学童保育を作って欲しい。
536	学童保育を3年生以降も利用したい。
537	今後とも児童館を中核施設として位置付けて子どもたちの放課後施策を展開してもらいたい。
538	児童館・学童クラブについて、一館一館の状況が違う中、子どもをそれに合わせるのではなく、子どもに合わせ、育てていく視点をしっかり持って進めてもらいたい。
539	保護者会運営の地域学童クラブ事業への補助増額してもらいたい。
540	京都市児童館学童連盟のウェブサイト「地域学童クラブ事業」を掲載してもらいたい。
541	京都市の「子育て応援マップ」に地域学童クラブを掲載してもらいたい。
542	小学校に2つ学童があることや、なるべく学校の近くに学童があることで、保育スペースを確保し、保育の質や安全性が高まると思う。
543	地域における子育て支援拠点の施設として児童館に多くのことが求められているが、京都市から示された「一元化児童館の職員体制」例は、学童クラブ事業に重きを置きすぎた体制である。
544	本プランは、児童館事業の今後の方向性として、児童の増加に伴う場所の確保や職員配置等、受け入れ態勢の整備について具体的に示されており、学童クラブ事業をより充実させるものと期待する。 今後は、学校や地域等と連携し、学童クラブが子どもたちにとってより安心して活動できる場となることを願う。
545	各児童館の設備・運営に格差がある現状があり、学童クラブ事業の対象拡大により、若い介助者の増員も必要になっている。携帯・スマホの取扱い、危険ドラッグの低年齢化等、多方面での気遣いが必要となっており、大変だと思う。
546	京都市には既に1～6年生の学童保育を実施している団体がいくつかあるので、これらをロールモデルとして制度設計の検証を行ってどうか。
547	民設民営の学童への補助についても考えてほしい。
548	地域学童クラブにも児童館並の補助金を保障し、児童館並の保育料にできるよう検討してもらいたい。
549	学童保育を単に6年生まで延長するのではなく、4～6年生には、低学年を引率する力や自立して遊びを企画する力や、社会の中で自分たちの活動を発表できる力などをつけるよう、働きかけていくべき。また、そのような働きかけを行っている地域学童クラブへの支援を手厚くする策も検討してもらいたい。
550	個々の学童クラブの事情に合わせて柔軟な選択が確保できるようにし、補助金の支給方法において、それぞれの個性ある取り組みを認めて支援する形を取ってほしい。
551	地域学童クラブ等、児童館以外の形態への補助金の増額や、地域学童クラブのスペースを十分確保するための、家賃補助などを考えほしい。
552	経済的な理由で共働きである家庭やひとり親の家庭などの子供たちにこそ児童館や学童クラブが必要であるにも関わらず、協働が駆動保育については、保育料が高いという理由で預けられないという矛盾がある。
553	現在通う共同学童保育所は、補助金が児童館施設より少ないため、公的施設の2倍近い保育料となっており、高いので通えない。補助金の引上げや所得に応じた保育料の細分化ができないか。
554	新しい基準に合わせた改修・整備が必要な場合、補助が出るのか？
555	学校内での整備および、地域学童クラブを拡大していくことが中心となっても、これまで共同保育所が行ってきたような独自の取組も続けられるよう、施設ごとの多様性を認め、それを継続することができるような支援を希望する。
556	地域学童クラブ等は、公的施設の児童館と同様の働きをしているが、補助金等は同様ではなく、保育料も安くない。補助金について配慮してもらいたい。
557	地域学童クラブの取組についてもっと柔軟に支援してもらいたい。
558	安心して子どもを預けられる指導員の確保のため、職業として安定した資格や給与の補助など、地位の向上を図ってもらいたい。
559	地域学童クラブなどの公設でない形態への補助金の増額や地域学童クラブのスペースを十分確保するための家賃の補助などの支援を行ってもらいたい。
560	個々の学童の事情に合わせて柔軟な選択が確保できるようにし、それぞれの個性ある取り組みを支援する補助金の支給方法を取ってほしい。
561	指導員の労働条件改善しないと保育に悪影響出ている。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
562	中学生や高校生のための、学童保育のような子ども達が集える場所、やすらぎを感じる場所の確保を。
563	学童クラブ事業や児童館の子育て支援については、現状は、アルバイトや介助者確保が前提の事業展開となるため、良い人材確保のために、雇用の条件改善や求人活動のバックアップなど、現場に向いて声を聞き、現状を調査し、具体策を提案してもらいたい。
564	新制度の実施に向けては、正規職員の増減や月曜日～土曜日までフルタイムで出勤できるアルバイトの人材確保などの難題がある。定期的に館に来館し、視察をして改善点を見出して、検討してもらいたい。
565	京都には大学生が多いので、学生の力を児童館や学童クラブ等の支援に活用してはどうか。また、京都の仏教寺院を利用することで施設の不足も解消するのでは。
566	学童クラブの対象が6年生までに拡大されたことに伴い、障害のある児童の居場所が保障されることになり、保護者にとっても、よろこばしいことだが、現在でもその受入れについては介助者に大きく頼ったものであり、保育が保障されるのか懸念される。十分な体制をとってほしいと願っています。
567	学童クラブ事業の設備・運営に関する基準条例の詳細な内容はいつ知ることができるか。
568	面積や支援の単位の基準について、猶予期間(対応期間)の設定はあるか。 また、市からの特別補助金や無利子貸付けなどの財政援助を行うべきと考えるが、市として具体的な方策があるか。あるとして、公設児童館、地域学童クラブも、同じ取り扱いとされるべきと考えるがどうか。
569	学童が6年生までに延長される事は非常にありがたい。女性の社会進出が叫ばれる中、子供を見てくれる体制が充実することを望む。
570	この機会に児童館・学童クラブ事業の現場の状況もしっかり把握して充実してもらいたい。
571	新制度への移行が予定されているが、児童館・学童クラブ事業に一層力を入れていただきたい。また、障害のある児童の受入れについて、職員体制も含め、しっかり検討していただきたい。
572	共同学童保育所への支援が外れてしまっているのが、大変残念。児童館と同等に補助金を交付してほしい。
573	新制度になり、より児童館・学童クラブが充実していくことを望む。
574	障害のある児童、特に重度の児童も充実した受入体制の中、学童クラブを利用できる様にしてもらいたい。
575	共同学童保育を利用しているが、学童保育が40人規模となることへの対応のための整備費、家賃の補助等についてはどうなるのか。保育料引下げのためにも補助金の増額をしてもらいたい。
576	「放課後の子どもたちの居場所づくり」として、児童館・学童保育所が大きく取り上げられていることを大いに評価したい。放課後の子どもたちの健全育成を図ってきた児童館は、学童クラブの子どもたちだけでなく、地域の0～18歳の子どもたちの児童福祉の拠点であり、プランとしてそこが示されることが、行政からみた児童館の評価であると思う。
577	学童クラブ年齢の引上げは良いことであると思う。しかし、職員の人数配置は改善できる可能性があるが、場所の確保が難しい。
578	児童館への初来館の親子から「もっと早くここを知っていたら」という声がある。情報発信、必要な人に届いているのか。
579	学童クラブ待機児童ゼロを目指す等、働く親にとってありがたい施策・取組が多く、子ども・子育て支援に力を入れている京都市はすばらしい。
580	学童保育が4年生で終わり、夏休みの子どもの居場所に困った。お弁当を持参すれば、安心してすごせる場所(なるべく無料で)を提供してほしい。
581	京北地域には学童がないので、学童保育を必ずつくってほしい。
582	京北地域に学童保育をつくってほしい。
583	学童保育や幼稚園等、市内で普通にあることは京北地域でも普通に利用できるようにしてほしい。
584	京都市では何故小学校内に学童保育がないのか。
585	学童保育の予算を増やして、職員を増やし、子どもが安心して過ごせる環境を整備してほしい。
586	地域学童クラブに児童館と同じくらい補助金を上げてほしい。
587	児童館や分室だけでなく空き教室を学童で利用できるように考えるべき。
588	子育て支援員というアルバイトのような対応で、子どもが怪我などしたとき市として責任が取れるのか。
589	学童保育の6年生までの対象拡大は賛成だが、子どもたちがゆったり過ごせるよう、場所をきちんと確保してほしい。
590	午後から勤務の支援員は人の確保、定着が困難であり、子どもたちにとってマイナスである。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
591	6年生までの拡大となると児童数の増加は避けられず、スペースが確保できるのか。
592	保育の水準を落とさないよう、正職員の確保が必要。
593	同じ施設内でクラス分けしても、遊ぶ時、おやつの時、登・退館時に一緒になれば今と変わらないのではないか。
594	職員の給料を上げて、学校の施設を使えるようにするなど、学校も巻きこんでほしい。
595	正規職員に業務分担や責任がかかりすぎることになる。予算を増額するべき。クラス分けしても変わらない。
596	職員の処遇を改善してほしい。
597	職員の処遇改善してほしい。
598	学童クラブ事業の拡大は必要だが、その代償に児童館事業（特に乳幼児親子への支援）が手薄になるのはおかしい。
599	制度変更の詳細をもっと早く分かるようにしてほしい。
600	学童クラブ事業も大切だが、乳幼児親子の支援等の児童館事業も大切。
601	6年生までの受入はいいが、高学年の平日の必要性はあるのか。
602	職員の処遇を改善してほしい。
603	制度変更の詳細をもっと早く分かるようにしてほしい。
604	職員の処遇を改善してほしい。
605	学童保育は全ての小学校に設置してほしいです。また、単なる居場所ではなく、学びの場となるようにしてほしい。
606	児童館事業を拡大したばかりのところで児童館担当を一人にするのは、その人の負担が増えるので、見直して欲しい。
607	若い人が安心して働き続けられる環境の改善をしてほしい。
608	共同学童保育の保護者負担を減らし、指導員を守るためにも、児童館並みの補助金を交付してほしい。
609	障害のある子どもたちが学童に十分通えるよう、予算を増額してほしい。
610	学童クラブ事業については、待機児童ゼロや質の向上が謳われているが、児童館事業については、1名体制の配置基準に改められており、後退している。
611	児童館事業についてプランどおりに実施するためには、児童館の職員体制を守るべき。
612	児童館事業についてプランどおりに実施するためには、児童館の職員体制を守るべき。
613	施設基準を満たせない共同学童保育所は、いつまでにその基準を満たせばよいのか。また、市はどの程度補完してくれるのか。
614	正規職員を減らすということがなく、児童館事業が充実するよう支援してほしい。
615	学童クラブ事業と放課後ほっと広場事業の間の子どもの待遇の格差を是正すべき。
616	学童クラブ事業の面積要件を満たすよう、民間の事業者に対する助成金支給が不可欠。
617	学童クラブ事業の「質」の評価について、やや不十分と思われる。
618	量的な拡大はわかるが、質的向上のための施策が見えてこない。
619	現状通り、児童館2名 学童2名の正規職員の配置を変えないでほしい。
620	6年生までの受入により子どもたちの安全確保が出来るのか心配。
621	放課後の子供たちの居場所づくりについて 児童館の職員数が不足していること、職員の研修等、指導する側の質の向上も必要だと思う。
622	放課後の時間の充実が大切だと思う。特に、小学校の放課後クラブなどいい経験になったので、そういう機会を多くの人たちに作ってほしい。

第6章 伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子どもたちを育むまちづくり

(1) 開かれた学校づくりと市民との市民ぐるみ・地域ぐるみで進める教育

623	第1章と第6章(1)イは、京都市はぐみ憲章の項目で、重複していると思うが、後者を削ることはできないか。
-----	---

「京都市未来こどもはぐくみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
624	京都で学ぶすべての市立中高生が、京都の魅力を再認識するとともに知識を深める契機となるよう、京都・観光文化検定試験(京都検定)を積極的に活用してもらいたい。
625	既に伏見区や山科区等で行われている京都を学ぶ講座をさらに積極的に開催してもらいたい。また、京都検定の合格者の活躍につながるよう、講座の講師に積極的に活用してもらいたい。
626	第6章について、全体的に大切な部分であると思うが、タイトルの「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子供たちをはぐくむまちづくり」が長く少しわかりにくい印象を受けた。「次代と自らの」とってしまい「未来を切り拓く」とまとめてしまってもいいのではないかと思う。
627	「地域・各団体と連携した「子どもを共に育む京都市民憲章」の普及・実践」や「心身共に健全でたくましい子どもの育成」の主な施策・取組は、もう少し具体的な活動内容・例等があった方がイメージがわかりやすくなると思う。
628	土日も校庭をオープンしてほしい。地域の誰でも使えるようにしてほしい。
629	小・中・高を全部無償化してほしい。
630	教育費の助成を。
631	学生のまちとして、もっと学生を活かしてほしい。例えば大学生と地域の子どもたちが共に何かを作り上げる機会があるといい。
632	学生を、子ども教育というところに活かすことは一つの手ではないか。
633	今どのような教育問題があるのかをそもそも知らないのもそれをもっと公にしてほしい。
(2) 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成	
634	危険ドラッグや薬物使用の危険性を指導する旨の記述もあってもよいのではないか。
635	私立の小学校や中学校、高等学校についての記載があまりないが、公立・私立ともに連携していくべき。また、京都府とも連携をお願いしたい。
636	学校において、京都らしい、京都ならではの教育はないのか。主な施策・取組を見ても、普通に感じた。
637	スマートフォンの急速な広がりにより、自分の子どもが被害に巻き込まれないか心配。京都市として、有効な取組に期待する。
638	学校給食の牛乳を無くすか、希望選択にして欲しい。家庭で牛乳を飲ませていないし、和食にも合わないと思う。
639	児童虐待や貧困が無くなることは理想ではあるが、現実的には、根絶は困難と思う。そうであれば、境遇上のハンディを持つ子どもが大人になっても、そのハンディを背負い続けることのないよう、必要な教育を受けることのできる環境等を整えて欲しい。
640	高等学校の通学区域がかわり、遠くの学校に行かされることもありうると聞いたが、子供たちが安心して勉強できる環境を整えて欲しい。
641	「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和とあるが、「確かな学力」は子どもたちの「生きる力」として必須なのか。
642	不登校の事があまり記載されていないことが気になった。
643	いじめ防止対策として具体的に何をしていくのかが全く見えない。
644	教育課程上、学芸会(ダンスなど含む)のような芸術表現を用いて、コミュニケーション能力の向上を図る学習プログラムを増やしてみてもどうか。
645	カウンセリング等の充実
646	近年、親の干渉が激しいと思うので、子どもが意思を持てるような授業をつくるべき。
647	牛乳は飲みたい。(給食)
648	もっと文化を活かした教育をしたい。
649	昔は友だちとの誕生会をしていたが、最近では学校から禁止されているらしく、小学生たちがやりたがっていた。
650	高校でも給食が欲しい。
651	京都らしい懐かしい遊びを教えるキャンペーンをしてどうか。
652	給食にデザートがもっとほしい。
653	デザートやからあげなど、子どもが喜びそうなものを給食にしてほしい。

「京都市未来こどもはぐくみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
654	創造性をはぐくむ教育をしてほしい。
655	交通マナーについて、学校、家庭での指導をしてほしい。
656	運動会で順位をつけないことに反対する。
657	京都水族館の近くで、夜中に学生がたむろし、タバコのポイ捨ても多いので、ポスターや回覧板などで啓発運動をもっと行うべき。通勤時の高校生や中学生が道路に広がって歩くなど危ないので、マナーについてしっかり講習してほしい。
658	非行や暴力は教育機関で防げるものもあると思う。少人数でしっかりと生徒に向き合うことで街の安全を守れると思う。
659	京都に図書館が少ないと感じる。
660	スポーツと子どもを結びつけられる、そんなまちになったらいいと思います。
661	もっと学校教育に競争原理を持ち込むべき。運動会で順位をつけないことや、テストの評価方法などが薄れてきているのが残念。
(3) 子どもたちの「学び」を支える教育環境の充実	
662	子どもを安心して通わせられるよう、教育機関の環境の充実、教職員、保護者の負担軽減のための取組が必要。
663	第6章で「食育の推進」や「学校における安全管理の徹底」を謳うのであれば、食物アレルギーへの配慮がもう少しあってもいいのではないかと。保育園で丁寧に対応してもらったことを考えると学校での対応にギャップを感じる。
664	教員同士の校内研修だけでなく、企業向け研修の講師による研修を実施するなど、従来の教え方に捉われない授業の進め方を学ぶ研修も実施してほしい。
665	集団下校をもっとしてはどうか。
666	あえて子どもが危ないと思う火を使ったり、刃物を使った経験をさせてあげたい。
667	子どもの通学路の安全性の確保
668	公立学校の施設を充実してほしい。
669	通学の際、小学生を見守るボランティアの数が少ないのではないかと。
670	通学の安全性について
(4) 親と親になる世代への働きかけ、家庭教育の充実・支援	
671	第6章の「子どもを共に育む『親支援』プログラム」の実践推進については、PTAだけではなく、学童クラブの取り組みについても柔軟に支援する方法を考えてほしい。
672	「身近で乳幼児と接する機会が少なく、自らが親となるまでに親としての心構えや喜び、子育てに必要な知識等を学ぶ経が減少しており、そのことが親になったときの子育てへの不安感や孤立感を増し、子どもの虐待につながる要因の一つになっているものと考えられている」（第6章(4)ア）というのはいままでに短絡的で、根拠なく断定すべきことではない。
673	本冊150頁の虐待の原因を勝手に考えた記載に問題がある。
674	子どもの虐待につながる要因の一つとして挙げられている例は、決してそう考えられるとは思わない。
675	早い段階で思春期からの「親前教育」を行うことが必要。
676	「子育てに必要な知識等を学ぶ経験が減少している」ことが「虐待につながる要因の一つ」とあるが、何の調査によるものか。
677	子どもをはぐくむためには、保護者自身が学校や地域との関わりを持って豊かな心で生活できることが大切。
678	若い人たちが何を学ぶかで、どんな大人になるかが決まり、どんな国になっていくかが決まっていく。そのためにも、子育てをする親が子どもになにを教えるのか、また教えられるのかが気になる。
679	児童に「しつけ」ができる大人が増えてほしいと思う。
680	あいさつと返事が出来ていない子どもが多い。学校が悪いのではなく、親が悪いのだと思う。
681	昔と比べ、茶髪とか金髪の子どもの多いなど、親の教育法を考え直してほしい。
682	子どもたちを育てていくうえで、親の教育も必要だと思う。
(5) 青少年の自主性と創造力をはぐくむまちづくり	

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
683	ニートやひきこもり，といった若者支援についても重要であり，第7章において，虐待防止や障害のある子どもへの施策と同様に，項目建てをしたうえで記載が必要ではないか。
第7章 支援を必要とする子どもや家庭を大切にすまちづくり	
684	「制度を整えること」と「制度と制度の隙間にある困難を解決するための支援のよりよい形を求めること」を並行して進めることを願う。
685	第7章「支援を必要とする子どもや家庭を大切にすまちづくり」では，児童虐待に重点が置かれすぎている。もっと多角的な視点で「支援の必要な子ども」を捉えるべき。
(1) 児童虐待対策・少年非行対策	
686	虐待の防止，虐待を受けた子どもへの福祉をしっかりやってほしい。
687	児童虐待対策には，地域の人や関係ある人が早期発見し，児童相談所がその家庭と相談することが大切。
688	親自身の積極的な虐待の意識はないが，子育てに息詰まってどうしようもなくて叩いてしまったり，放っておいてしまったりする場合も多いと思う。そういった親に寄り添った支援をお願いしたい。
689	児童虐待未然防止には，地域と子育て家庭がつながることが非常に大切なので，より一層，子育てを地域や社会で見守る仕組みづくりを進めてもらいたい。
690	児童虐待をなくすためには，一人ひとりの児童虐待に対する意識の向上が不可欠。プランに掲げているとおり，啓発活動等の実施や保護者が親として育ち学べる取組を推進してもらいたい。
691	虐待の対策として虐待する親への学習等にも力を入れても良いのではないかと（DVを含む）。
692	児童虐待が起これないような社会にしていくとともに，虐待があった場合は，速やかに対応できるよう検討していくべき。
693	虐待の発生の予防と早期発見，早期対応の他，加害者である親の支援も重要。
694	虐待ではないグレーゾーンについて理解が進み，支援が行き届けばいいと思う。
695	児童養護施設の子どもたちを対象としたボランティア活動をしているが，「どうして同じ日本に住んでいるのに，暗いバックグラウンドを抱えて生きていかなければならない子どもがいるのか」と感じる。これ以上，悲しい思いをする子ども達をふやしたくないと思う。
696	関係機関等を結ぶ核として，今後，多様化する相談にも対応できるように，子ども支援センターの機能がさらに強化していくよう望む。
697	居住実態が未把握の児童の確認を徹底してもらいたい。
698	虐待を受けて傷ついた子どもを，一人ひとりしっかりと支援してあげてほしい。また，児童養護施設は，入所せざるを得ない子どもたちにとって居心地のいい場所にしてほしい。
699	「児童の権利擁護」という言葉が出てくるが，難しい。「子どもを守る」の方が分かりやすいのではないかと。
700	場合によっては警察とも連携し，虐待する親を子どもから引き離さなければ，何度も同じことを繰り返すと思う。
701	少年非行対策の記述のうち，「約半数（44.1%）が再犯であり，全国の再犯率を上回っています。」とあるが，犯罪行為を行った少年を指しているのであれば，再犯者率が正しいのではないかと。
702	再犯者率が高いのは，初犯者率が低いことの裏返しであると思うので，その点について留意いただきたい。
703	少年非行については，早期の段階での対応や再発防止に向けて，関係機関での連携を十分にしてもらいたい。
704	家庭や周辺環境に不安や不信感を持った子どもが非行に走ってしまうことのないよう，より広い分野での連携をお願いしたい。
705	少年非行対策について，保護司の増員，人材確保，更生施設の増設，進学，就職の支援拡大を望む。
706	未成年の深夜徘徊がとて多いことが気になる。取締りをもっと強化した方が良いのではないかと。
(2) 被虐待児をはじめとした養護等が必要な子どもの福祉	
707	本体施設：グループホーム：里親等≒1：1：1という方針が掲げられているが，数の目標を達成することに縛られてはいけない。子どもの利益を最優先に考えるべき。
708	京都市家庭的養護推進計画について，前期（2015～2019）の数値目標が提示されていない。
709	グループケアやグループホームの設置の重要性は理解できるが，職員配置の増加と職員の質の向上に向けた施策を望む。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
710	従来の福祉施設の職員人数では担いきれていないようにも思うので、職員の増加や親への支援なども必要になってくると思う。
711	児童養護施設の「高機能化」とあるが、京都市独自にそれを可能にするプログラムはあるのか？
712	本体施設の小規模化やグループホームを推進していくためには、人材確保、人材育成等、法人単独では解消できない重要な課題がある。行政としての具体的な手立ては。
713	「子どもの養育のためには、特定の大人との愛着関係の下で、安心感や自己肯定感、信頼感を育むことが重要」との記載に同感であり、親のいない子どもや虐待を受けた子どもなどに十分な愛情を注いであげられるよう、積極的に取り組んでいただきたい。
714	子どもを児童養護施設で見てもらっているが、自分が育てると同じような環境で子どもを養育する家庭的養護の推進の方針は非常にありがたい。ぜひ進めていって欲しい。
715	一個人である里親への委託を推進するのであれば、里親が孤立しないように十分な支援策を講じるべきである。
716	家庭養護の推進として、里親への委託を優先していくとされているが、里親との生活は、家庭の生活そのままではないと思う。児童相談所や施設を始めとして、地域等でも手厚いフォローができるよう、里親という制度をより多くの方に周知して欲しい。
717	里親を知ってもらう為に、市や国が大きく動いていく必要がある。
718	一時保護所について、本計画は平成27年度開始であるにも関わらず、青葉寮移転までの来年度1年間の計画がない。
719	京都市の前プランにおいて、第二児相が設置されたが、一時保護機能がないことが大きな課題ではなかったのか。今後の具体的な方向性を示す必要はないか。
720	小規模グループケア、地域小規模等の設置推進とあるが、数値目標がない。
721	本体施設の高機能化の課題として、取りわけ乳児院の一時保護所化が進んでいるように思われる。里親、地域支援を進める上で、専門職（臨床心理士等）の複数配置が必要ではないか。
722	「退所者支援」について、東京都のように「自立支援コーディネーター」の配置を考えているのか？
723	厚生労働省及び全国児童養護施設協議会において児童家庭支援センターの設置推進が謳われているが、この点についてどのように考えているか？
724	乳児院や児童養護施設を小規模化するのであれば、今の施設をどう利用するのか聞きたい。
(3) 障害や疾病等で支援が必要な子どもの福祉	
725	平成25年10月開始の「ほほえみネット（放課後支援）」は、障害福祉分野と児童福祉分野の事業連携のあり方として、今後ますます求められていくべき形でないかと思う。
726	就学に当たっては、障害を持った親子に寄り添ったきめ細かな対応をお願いしたい。
727	市内に心身障害児施設が1か所（ヨゼフ）しかなく、他府県の施設を利用することとなったり、今必要な治療・訓練を受けることができないなど、不利益につながっている。
728	発達相談所をもっと機能的に活用できるよう望む。
729	入所児が障害を持ち、今必要な訓練を受けたい場合、二重措置はできないと断られ、やむなく自己負担で私的契約等の形を採っている。障害児に公平に治療・訓練の場を与える施策を願う。
730	障害や疾病等で支援が必要な子どもの福祉について、早期発見・早期支援の取組の推進が必要とあるが、発達障害等は親だけで判断できるものではないので、市役所を挙げて、すべての部署できめ細かな体制で取り組んでもらいたい。
731	障害のある児童が学校以外でも、居場所を確保し自由に過ごせるようヘルパー制度の充実を。
第8章 ひとり親家庭の自立促進	
732	ひとり親家庭だが、医療費等の申請が平日しか行えず困っている。19時まで受付の日を月に数日設ける、土曜日にも申請できるなど、行政側の工夫を。
733	ひとり親家庭に各部署から毎年届く申請書類を、まとめて送ってほしい。
734	貧困の連鎖を断つためには、社会的な弱さをサポートするだけでなく、社会の一員としての義務をはたせる喜びが実感できる所まで、手厚いサポートが必要。併せて、子どもの学習のサポート体制が必要。
735	ひとり親家庭の貧困率を見て驚いている。精神面もそうだが経済的な支援を重点的にしていった方がいいと感じた。

「京都市未来こどもはぐみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
736	企業に対して、母子寡婦の優先雇用や雇用の推奨などの実施、自治体独自の補助金の創設など、正規雇用施策の充実強化を。また、子育てなどの理由からやむなく非正規で働いている雇用者について、こども手当の増額などで所得補填し、就労意欲の向上と実質的な生活水準の向上を。 ひとり親家庭の正規雇用を促進するため、まずは「行政関係の求人」から正規雇用を増やし、民間企業の模範となってもらいたい。
737	高等技能訓練促進費制度や自立支援教育訓練給付金など公的職業訓練制度の一層の拡充を図るとともに、訓練中の生活資金の支援について強化を。
738	同居親族の所得によって児童扶養手当を受給出来ない人について、金額による一律判断ではなく実質的な援助の有無の実態把握を。
739	ひとり親家庭等医療費助成制度について、子どもの年齢（18歳）で終了するのではなく、子どもの成人後（学生～社会人）の状態も考慮し、医療費無料を延長することで、ぎりぎりまで医療にかかれぬ状態を改善し、健康的な就労が可能になる。
740	児童扶養手当や母子医療を受けられないひとり親家庭も見受けられるため、実質的に必要な家庭に確実に適用されるよう運用の改善を。
741	学習支援や高校大学への進学を支援する給付型奨学金制度の制度化を。
742	ひとり親家庭の子どもは精神面や経済面などで不安定な状況に置かれているため、今後は子ども達の学習の機会が多く持てるような居場所を作ったりしていくことが必要。
743	母子家庭の施策は多くなってきてはいるが父子家庭が相談できる機関なども作っていき、父子家庭が生活しやすい環境を作っていくことも重要。
744	ひとり親家庭支援センターが1つしかないのは少ない気がする。もう少し充実してほしい。
745	父子家庭に対する支援について、しっかり記載されており良い。母子家庭に対する支援策に加え、父子家庭への施策の充実を望む。
746	ひとり親家庭の生の声を聴いてほしい。
747	「離別」と「死別」をひとくくりにせず対応を考えてほしい。
748	ひとり親の子ども同士が同じ状況の子どもと悩みを話し合える場が必要。各地域で実施すると、小さな子どもも来やすいと思う。
749	ひとり親家庭の支援について、子どももいろいろな悩みを持っている場合があり、子どもへの支援も必要ではないか。
750	ひとり親家庭の日常生活支援事業を利用しやすくしてほしい。
751	ひとり親家庭の子どもの学習支援事業を行ってほしい。
752	ホームフレンド事業を実施してほしい。
753	社会全体が協力し合い、ひとり親家庭の経済的・精神的負担を減らしていける社会になってほしい。
754	親がいない、金銭的な問題で塾等に通えない人に対する支援
第9章 すべての家庭を支える子育て支援施策の充実	
755	地域型保育や幼稚園の預かり保育より、認可保育所を中心とした計画に変更してもらいたい。
756	事業計画の中で幼稚園預かり保育や地域型保育の比重が高すぎる。認可保育所を中心とした計画に修正してもらいたい。
757	幼児教育・保育の提供体制の確保方法は、どこまで厳格に取り扱うのか。隣の区から通う園児が多い現状なども踏まえ、柔軟に考えられるようにすべき。
その他	
758	福祉事務所や役所の担当の対応が冷たい。
759	少人数クラスをやめる、地域活動への参加、スマホの活用、シャーペンを使う
760	花火を身近な場所でしたい。
761	京都でイルミネーション見たい。
762	駄菓子屋がほしい。
763	駄菓子屋さんさんがほしい。
764	天体観測したい。

「京都市未来こどもはぐくみプラン(仮称)」パブリックコメント 主な意見一覧

No.	内容
765	制服の有無。服装にも差が生まれる。
766	京都だけランリュックを使っている意味は。
767	保育園の減少。待機児童の増加，高齢者の介護制度，小学生の英語教育について詳しく知りたい。
768	今はラジオ体操をしているのか。体操の後の時間を使っているらすれば面白いと思う。